

一般社団法人 日本土壤肥料学会 2016 年度通常総会

議 事

第 1 号議案 2015 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告

I. 2015 (平成 27) 年度事業報告 (平成 27 年 3 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日)

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

- 1) 日本土壤肥料学雑誌 (会誌) は、第 86 巻第 2 号～6 号、第 87 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は次のとおりである。報文 15 編、ノート 13 編、技術レポート 7 編、講座 16 編、総説 2 編、資料・国内外情報 27 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、奨励賞受賞論文要旨 5 編、技術奨励賞受賞論文要旨 2 編、進歩総説 30 編、国際土壤年企画エッセイ、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.60 掲載論文要旨、合計 652 頁、ほかに第 86 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壤教育活動だよりを含む) 等。
- 2) SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (欧文誌) は、Vol.61, No.2～No.6、S1 (特別号) および Vol.62, No.1 の計 7 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 95 編、短報 3 編、総説 7 編、会誌報文抄録等、合計 1,085 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 10、正会員 354 (うち海外 19)、学生会員 69 (うち留学生 63)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 20 等であった。
- 3) 日本土壤肥料学会講演要旨集 (第 61 集、295 頁) を 2015 年度京都大会に際して刊行した。

(2) その他の刊行物

農文協より日本土壤肥料学会編集「世界の土・日本の土は今」を刊行した。

2. 講演会および研究会等の開催

(1) 「土と肥料」の講演会

4 月 4 日の通常総会終了後に東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催した。なお、本講演会は日本学会協議の後援を受けている。テーマを「国際土壤年によせて」とし、講演者と演題は小崎 隆氏「国際土壤年によせて—私たちは土壤劣化から何を学んだか—」および伊藤 治氏「アフリカサバンナにおける農業開発—土壤肥料的観点からみた現状と問題点—」であった。

(2) 2015 年度年次大会等

- 1) 京都大学吉田南キャンパスおよび同志社大学寒梅館において年次大会を開催した

(9/9~11)。口頭発表は 332 課題、ポスター発表は 222 課題、合計 554 課題であった。年次大会への参加者数は 894 名であった。

2) シンポジウムは、公募による 5 つのテーマのシンポジウム及び大会運営委員会企画による市民公開シンポジウムを実施した。

2、3 部門：土壌の物質循環機能を多角的にみる—最先端手法が切り拓く新たな姿

4 部門：植物栄養の多面的解析と応用に向けて

9 部門：土壌保全活動の推進に環境思想、環境社会学は何かができるか？

9 部門：土壌と東西の神々

全部門：津波被災農地の営農再開における土壌肥料分野の貢献と課題

公開シンポジウム：土壌はアフリカを養えるのか

3) ミニシンポジウムは、以下に示す 2 つのテーマについて実施した。

3 部門：土壌微生物研究を農業にどう役立てるか—基礎研究から実用化への展開

9 部門：全国 6 支部の小・中・高校生及び大学生に対する土壌アンケート調査結果の集計・分析から土壌教育を考える

4) 同志社大学寒梅館において、以下の講演が行われた (9/10)。

第 60 回日本土壌肥料学会賞受賞者

・加藤好武：日本における農耕地土壌情報のシステム化とその利用に関する研究

・藤山英保：塩ストレス、特にソーダ質土壌障害に対する植物の応答に関する栄養生理学的研究

・横山 正：バイオ肥料微生物の特性解明とその利用

日本農学賞・讀賣農学賞受賞記念講演

・山谷知行：イネの生産性を制御する窒素代謝の分子基盤

特別講演

・Prof. Dr. Rattan Lal (IUSS 次期会長) : Soil and Sustainability (土壌と持続性)

5) 第33回日本土壌肥料学会奨励賞 (池永 誠、小宮山鉄兵、中尾 淳、野副朋子、藤井一至) 及び第4回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者 (種村竜太、長坂克彦) の記念講演については、京都大会一般講演会場で行われた。

6) 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者 (日高秀俊・新妻成一・小宮山鉄兵・藤澤英司、藤田 裕・清水 明・江口定夫・板橋 直・折本善之・飯村 強) 及び SSPN Award 受賞者 (Yusuke TAKATA・Kazunori KOHYAMA・Hiroshi OBARA・Yuji MAEJIMA・Naoki ISHITSUKA・Takashi SAITO・Ichiro TANIYAMA) については、京都大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。

(3) 2015 年度支部大会

・北海道支部：秋季支部大会 12/2 於道民活動振興センター「かでる 2・7」(札幌市)

・東北支部：支部大会 7/6~7 於カレッジプラザ (秋田市)

・関東支部：支部大会 11/28 於東洋大学板倉キャンパス (群馬県邑楽郡板倉町)

・中部支部：支部例会 2016.3/3 於三重大学 (津市)

- ・関西支部：支部大会 12/11 於メルパルク松山（松山市）
- ・九州支部：春季例会 4/23～24 於九州大学箱崎キャンパス創立五十周年記念講堂（福岡市）、秋季例会 9/28～29 於鹿児島大学農学部（鹿児島市）

(4) その他

- ・「第 28 回環境工学連合講演会（5/15 日本学術会議講堂）」を共催した。
- ・日本地球惑星科学連合 2015 セッション「土壌学の挑戦と可能性－地球科学・生態学・生物地球化学との接点」（5/24～28）を共催した。
- ・「第 52 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/8～10）」を共催した。
- ・「第 13 回微量元素の生物地球化学に関する国際会議（ICOBTE 2015 7/12～16 福岡市）」を共催した。
- ・「国際第四紀学連合第 19 回大会（INQUA Congress 2015）」のセッション「人間活動による人工および天然放射線核種の生物圏への広がりと影響に関する研究」（7/27～8/2）を共催した。
- ・同 INQUA Congress 2015 のセッション「都市土壌の生成」（7/28～8/2）を協賛した。
- ・日本農芸化学会関東支部主催の「高校生のための実験教室 バイオサイエンス・スクール 2015」を共催した（8/5）。
- ・埼玉県立川の博物館主催の「国際土壌年記念 巡回展示」を共催した。
- ・「第 59 回粘土科学討論会（9/2～5）」を共催した。
- ・「第 10 回高崎量子応用研究シンポジウム（10/8～9）」を協賛した。
- ・公益財団法人 農業・環境・健康研究所主催の第 5 回シンポジウム「土壌と人間：国際土壌年 2015 を祝して（10/23）」を協賛した。
- ・MARCO サテライトワークショップ 2015「アジアの作物生産システムと水資源問題のための SWAT の適用と適応（10/20～23）」を後援した。
- ・「第 31 回腐植物質学会講演会（11/19～20）」を協賛した。
- ・東北農研シンポジウム「鉄鋼スラグは有望な農業資材となり得るか？－農業分野での技術開発の可能性を探る－（11/27）」を後援した。
- ・「第 31 回近赤外フォーラム（11/25～27）」を後援した。
- ・「2015 環太平洋国際化学会議（12/15～20 ホノルル）」を後援した。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会（10/17）、論文賞等選考委員会（10/17）および第 4 回理事会（10/18）において、日本農学賞の候補者、日本土壌肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

- ・第 61 回 日本土壌肥料学会賞

神山和則：土壌情報システムを利用した農業生態系の評価に関する研究

中西啓仁：イネの鉄栄養研究から出発したカドミウム吸収関連遺伝子群の発見と低

カドミウム米開発への貢献

渡邊 彰：土壌有機物の化学構造と動態に関する研究

・ 第 21 回 日本土壌肥料学会技術賞

熊谷勝巳：積雪寒冷地水田における良食味米安定生産と環境影響軽減のための土壌管理・施肥技術の開発

藤本順子：園芸作物における栄養障害の早期診断法と障害回避技術の開発

・ 第 34 回 日本土壌肥料学会奨励賞

岡崎圭毅：植物代謝産物プロファイリングによる作物栄養及びストレス応答に関する研究

小八重善裕：アーバスキュラー菌根の細胞内動態に関する研究

多胡香奈子：農耕地における農薬・窒素動態に関わる土壌微生物の新機能解明

早川 敦：流域の窒素、リンおよび硫黄の生物地球化学循環に関する研究

南川和則：農耕地における温室効果ガス排出削減技術の国際的な活用に向けた基盤研究

・ 第 5 回 日本土壌肥料学会技術奨励賞

笛木伸彦：寒地畑作物に対する環境保全的かつ実践的な窒素施肥技術の開発

本間利光：水稲における水田土壌中のカドミウム・ヒ素の吸収抑制に関する研究

・ 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

八木哲生・松本武彦・大友 量・小林創平・三枝俊哉・岡 紀邦：根釦地域における飼料用トウモロコシのアーバスキュラー菌根菌感染率とリン酸施肥反応に及ぼす前作物の影響

・ SSPN AWARD 受賞者

Kohei Yamashita・Hiroki Honjo・Mizuhiko Nishida・Makoto Kimura・Susumu Asakawa：Estimation of microbial biomass potassium in paddy field soil

Sumio Itoh・Tetsuya Eguchi・Naoto Kato・Shigeru Takahashi：Radioactive particles in soil, plant, and dust samples after the Fukushima nuclear accident

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

(1) 日本農学会関係

- ・平成 27 年度日本農学会シンポジウム（統一テーマ：国際土壌年 2015 と農学研究—社会と命と環境をつなぐ 10/3 東京大学弥生講堂）の運営に協力した。当学会からは、小崎 隆氏が基調講演「100 億人時代における土壌の役割」を行った。

(2) 日本学術会議関係

- ・土壌科学分科会・IUSS分科会の合同会議が開催され（6/1）、国際土壌年に際して土壌機能に関する提言「緩・急環境変動下における土壌科学の基盤整備と研究強化の必要性」を行うこととなり、日本学術会議HP上に公開された（1/28）。

(3) IUSS、ESAFS 関係

- ・アジア土壌パートナーシップ (ASP) 専門家会合 (5/13~15) に代表者を派遣した。我が国は WG3、4、5 への参加を申請し承認されるとともに、八木一行氏が WG3 の座長に推薦され承認された。
- ・京都大会に Prof. Dr. Rattan Lal 氏 (IUSS 次期会長) を招聘した (9/10)。
- ・第 12 回 ESAFS (東・東南アジア土壌科学連合会議 9/18~21 中国・南京) に代表者を派遣した。IUSS の土壌生物関係および水田土壌肥沃度関係のセッションにおいて浅川氏 (名古屋大)、西田氏 (東北農研) および安藤氏 (山形大) が企画したシンポジウムが開催された。
- ・国際土壌年記念シンポジウム (9/19~21 ドイツ・キール) および国際土壌年総括会議 (12/7~8 オーストリア・ウィーン) に代表者を派遣した。

(4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・日本土壌肥料学雑誌 国内 10、国外 14
- ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 20

(5) その他

- ・第 14 回日本農学進歩賞を野副朋子氏 (明治学院大学・東京大学) が受賞した (11/27)。

5. 本学会の委員会等活動

(1) 企画委員会

企画委員会では、「土と肥料」の講演会を企画し、東京大学山上会館で開催した(4/4)。次年度も、2016 年度第 39 回総会後 (2016.4/4) に「土と肥料」の講演会を開催し、日本学術会議の後援を受けるよう企画している。

(2) 土壌教育委員会

- ・小学生から大学生までを対象とした土に関するアンケート調査を行い、調査結果を京都大会のミニシンポジウムで発表した (9/11)。
- ・イオングループの協力により千葉市において土壌観察会「土のひみつを探ろう！～国際土壌年 2015 企画～」を実施した (7/12)。参加者は、イオンチアーズクラブに所属する子ども 45 名とコーディネータースタッフ 9 名であった。
- ・日本大学 (藤沢市) において、(公社) 日本農芸化学会関東支部主催の「高校生のための実験教室 バイオサイエンス・スクール 2015」を日本大学生物資源科学部生命化学科とともに共催した (8/5)。
- ・京都大会において「高校生ポスター発表」を開催した (9/9)。台風の影響で 1 校 (1 課題) が不参加となったが、7 校 (12 課題) がポスター発表に参加した。
- ・仙台市太白山自然観察の森 (宮城県仙台市) に土壌断面の説明等が書かれた野外観察板を寄贈した (2/26)。

(3) 広報委員会

- ・国際土壌年記念巡回展「土ってなんだろう」のプレスリリースを行った (5/28)。
- ・地球土壌儀 (英語・日本語表記) を作成し、各支部に配布した。

- ・ICOBTE (7/12~16) および INQUA (7/26~8/2) において学会紹介ブースを出展した。
- ・「エコプロダクツ 2015 (12/10~12)」に日本ペドロジー学会とともにブースを出展した。

(4) 国際土壌年事業実行委員会

- ・国際土壌年 2015 に関わる事業を実行する委員会を設置し、事業活動を開始した。
- ・国際土壌年 2015 と土壌の重要性に関する啓発活動へのご支援のお願いに対し、24 の企業・団体から寄附およびその他の支援をいただいた。
- ・日本ペドロジー学会と共催で、土壌フォトコンテストを開催した。応募総数は 419 (うち小学生部門 16、中高生部門 41) 点であり、審査委員会で最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、入選 14 点を選定した。これらの入選作品を佳作 31 点も含めて学会ホームページで公開した。
- ・埼玉県立川の博物館および日本ペドロジー学会と共催で、博物館等での国際土壌年巡回企画展を実施した。
- ・国際土壌年に合わせた書籍として、農文協より「世界の土・日本の土は今」、朝倉書店より「土のひみつ」を出版した。
- ・国際土壌年を記念し、(株) 向後米穀では特別栽培米を栽培・販売し、(株) 本田商店では純米吟醸酒「土のときめき」を製造・販売した。
- ・一般市民を対象とした国際土壌年 2015 記念公開シンポジウム「つち・とち・いのち～土のことを語ろう」を開催した (12/5)。

(5) 財政基盤整備委員会

- ・学会の経費低減を図るため、会計士事務所の委託契約料について検討した結果、現在委託している公認会計士事務所との顧問契約を 3 月 31 日で終了することとし、新たに公認会計士事務所を選定して契約を締結した。

6. 会務報告

(1) 会員の動向

- 1) 2016 年 2 月末における会員数は次のとおりである。

正会員 1,834 名 (うち会費免除会員 90 名、外国正会員 35 名)、賛助会員 43 社、名誉会員 11 名、学生会員 298 名 (うち留学生 63 名)、国内団体購読会員 106 団体 合計 2,292 名

- 2) 2015 年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 50 名 (うち海外正会員 0 名)、学生会員 145 名 (うち留学生 21 名) 合計 195 名

退会：正会員 122 名 (うち会費免除会員 5 名、海外正会員 1 名)、賛助会員 1 団体、学生会員 129 名 (うち留学生 22 名)、国内団体購読会員 8 団体 合計 260 名

(2) 会議

- 1) 総会：2015 年 4 月 4 日、東京大学山上会館において第 38 回通常総会が開催さ

れた。本総会においては、①2014 年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2015 年度事業計画案および収支予算案、③役員の新任・退任、④名誉会員の推薦、⑤総会議事録署名人の選任について審議され、各議案とも、原案どおり議決または承認された。その議事録を会誌 86 巻第 3 号に掲載した。

- 2) 理事会：東京大学山上会館において 1 回、学会事務所において 7 回開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、平成 28 年度日本農学会シンポジウムのテーマ案、京都大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成案、交通費支給に関する内規の改定案、学会会議室の使用に関する内規案、T&F 社との契約更新、国際土壌年 2015 に関わる諸事業の計画・実施案、土壌肥料若手の会 2015 の支援、若手会員海外渡航費の支援等について審議し、実施してきた。
- 3) 部門長会議：①第 1 回部門長会議は、メール会議で実施した (3/9~4/7)。京都大会におけるシンポジウムの公募に対して 4 件の応募があったが、関連部門に偏りがあり、また数的にも少ないことから、部門長会議からも 1 件提案し、合計 5 件開催することとした。その他、大会運営委員会から公開シンポジウムが 1 件開催されることとなった。②第 2 回部門長会議 (6/6) においては、京都大会のプログラム編成、ポスター賞の各部門への割当数、部門長会議提案総説の発行頻度等について検討された。③第 3 回部門長会議 (11/8) においては、部門長の交代、佐賀大会の準備状況等が報告され、佐賀大会のプログラム編成方針を確認した。
- 4) 2015 年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、第 61 回日本土壌肥料学会賞、第 21 回日本土壌肥料学会技術賞、第 34 回日本土壌肥料学会奨励賞および第 5 回日本土壌肥料学会技術奨励賞の受賞者を選考した (10/16)。その結果は第 5 回理事会 (10/17) での承認を経て、会誌 86 巻第 6 号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と、SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第 5 回理事会での承認を経て、会誌 86 巻第 6 号に掲載した。
- 5) 会誌編集関係：常任編集委員会を 4 回、地域担当編集委員との合同編集委員会を 1 回開催した。①投稿状況については、例年に比べて報文・ノートの投稿数が少ないことから、投稿促進の工夫および総説・解説等の拡充が必要である。②CiNii から J-STAGE への移行についての説明会 (5/11) を受けて、具体的な検討を行った。③国際土壌年関連企画「歴代会長・副会長によるエッセイ」を会誌第 86 巻 5 号と 6 号に掲載した。
- 6) 欧文誌編集関係：①SSPN 投稿・編集状況が報告された。1~12 月までの投稿数は 306 編と例年より少ないが、とくに問題はない。②SSPN 特集については、砂漠化 (61 巻 3 号) および都市域土壌 (61 巻 3 号特別号) および WCSS (61 巻 4 号) が発行され、ICOBTE (62 巻 2 号予定) の企画が進められている。③T&F 社との契約を更新した。
- 7) 支部における会議

北海道支部：第 1 回支部評議員会（6/4 北海道大学学術交流会館）が開催された。
第 2 回支部評議員会および支部総会（12/2 道民活動振興センター「かでの 2・7」）
が開催された。

東北支部：支部役員会および支部総会（7/6 秋田市カレッジプラザ）が開催された。

関東支部：支部幹事会および支部総会（11/28 東洋大学板倉キャンパス）が開催さ
れた。

中部支部：156 回支部評議員会（5/22 名古屋国際センター）が開催された。157
回支部評議員会および 76 回支部総会（2016.3/3 三重大学）が開催された。

関西支部：支部役員会（12/12 愛媛大学グリーンホール）が開催された。

九州支部：支部総会、支部常議員会、支部賞選考委員会および若手討論会（4/23
九州大学箱崎キャンパス）が開催された。

(3) その他

- ・京都大会に合わせて開催された日本土壌肥料学会若手の会（9/12～14）について開催費用の一部を支援した。
- ・若手会員の海外学会等の参加渡航費補助金支給者の選考を行い、前期 4 名の支援者を決定したが、1 名辞退があり、3 名の渡航費の一部を支援した。後期については申請がなかった。
- ・2017 年度年次大会は南條正巳氏（東北大）を大会運営委員長とし、2017 年 9 月 5 日（火）～7 日（木）、東北大学農学部青葉山新キャンパス及び災害科学国際研究所において開催することを決定した（10/17）。